



「学年通信」は、生徒の皆さんが読み終わった後、必ず保護者の方に渡してください

Leap

2学年主任 野村 明日香

校内のどこからともなく蝉の声が響く季節となりました。待ちに待った夏休みが目前ですね。夏休みの目標は立てたでしょうか。高校2年生の夏休みを私ははっきりと思い出すことができるのはチャート1冊という膨大な課題と格闘したからです。みなさんは夏休みの課題一覧を見て何を感じましたか。各教科においてあなな課題があるはず。自らを見つめて、各自の課題に向けて取り組んでほしいと思います。苦手とする分野がある場合は夏が克服のチャンスです。

先日の高校野球2回戦は私たちに多くの感動を与えてくれました。春の公式戦ではコールド負けした相手に、7回まで無失点で投げぬいた2年生ピッチャーの好投など、手に汗握るプレーの連続に応援もヒートアップし、甲府東高校の一体感を肌で感じる時間となりました。みなさんも目標をもって努力すれば結果は自ずとついてくるのだと元気や勇気をもらったことでしょうか。志を高くもってこの夏を過ごしてほしいと願っております。

夏休みに取り組んでほしいこと

- ・志望先を決めよう・・・受験したい大学の入試方法と、入試科目調べは必須。OCで何を体験する？
- ・地域、日本、世界に目を向けよう・・・今何が起きているのか。課題は何なのか。自分は社会でどのように生きていくのか。ニュースや新聞や家族との会話を通して考えてみよう。
- ・お手伝いをしよう・・・自立の一歩です。家族の一員としての責任を果たそう。みんながハッピーに。
- ・早起きは三文の徳・・・暑い夏こそ比較的過ごしやすい早朝は貴重な時間です。頭や体を午前中にフル回転できるようにすることは受験にも生きてきます。学園祭準備期間を思えばみなさんにはできます。

7・8月の主な行事予定

- 7月19日(金) 前期中間試験、納め式、全校集会、大掃除(安全点検)
 (7/22~8/20夏季休業)
- 22日(月)~26日(金) 登校学習会
 23日(火)~26日(金) 理数コース宿泊学習会
 30日(火) SOW(富士山巡検)
- 8月6日(火) エネルギー教育〈黒部ダム見学〉(希望者)
 8日(木)・9日(金) English Camp in iCLA(希望者)
 13日(火)~15日(木) 完全閉庁日
 16日(金) 夏期講座
 17日(土) 全統記述模試
 19日(月) 夏期講座
 20日(火) 夏期講座
 21日(水) 午後授業カット、漢字検定(希望者)
 23日(金) ④立会演説会、⑤投票、⑥開票
 24日(土) 学校見学会・理数コース説明会(中学生対象)
 29日(木) 第2回定期試験時間割発表(学習教化週間スタート)



【2学年リレー通信】

現実と向き合う

2年4組 担任 中村 亮

皆さんは、大事な時の前に怪我をしたり、体調を崩したらどうだろうか。また、その気持ちをどう昇華させるか。あいにく僕が青春をかけた南関東大会は、(当然だが)都合よく日程変更してくれなかった。

高校時代、スポーツ脳になっていた私は、「甲子園」や「インターハイ」などの特別な呼び名を聞いて、「高校時代は華だ」と思っていた。そして、部活にのめりこみ迷わずインターハイを目指した。陸上競技の投てき競技は、予選が3投、上位8名がさらに3投の追加試技が与えられる。インターハイに出るためには、各都県の上位6名が進出してきた南関東大会(東京、神奈川、千葉、山梨)で6位に入賞する必要がある。言わずと知れたことだが、他都県は山梨の4倍の競技人口だ。そこに3年間の高校時代の時間をつぎ込み、目標を達成するべく突進していった。

そして迎えた3年の南関東大会の前日…、公式練習で(激しく、しっかり)まさかの捻挫をした。自分と周囲の戦績は常に調べていたが、ライバルたちの各都県予選から導きだした南関東大会前のランキングはギリギリ6位。ベストな状態で6位なのに…「なぜ、今、捻挫なんだ!!」と絶望した景色を今でも覚えている。しかし「夢」への入り口は待ってくれない。

そんな時に、同じようにインターハイを目指せるレベルの仲間が捻挫をし、私より早く且つ激しく宿舎で絶望感に浸っていた。布団にもぐって号泣付き。自分も捻挫をして凹んでいたが、絶望度で負けた私は同部屋であったその仲間を一生懸命慰め、励ました。

「試合まだ終わってない。泣くのは終わってからにしよう。」

突然、矢印が自分に向いた瞬間。この仲間にはなった一言が自分を救った。今、できることにベストを尽くす。やるべきことにベストを尽くす。これが目の前に迫った「夢」への最善の手だった。

一投入魂。そのために心に決めたのが「足が悲鳴を上げようが、病院送りになろうが今までのものを出し切り、投げ切る」「周囲に引っ張られず自分のペースをつくる」ことだった。実際、この試合については、周囲の選手の記録を一切見なかった。自分は6位か7位か。その辺にいるのはなんとなく感じていたが、順位も記録もわからない。時間がとても長く感じ、ただベストを尽くすことだけに集中した。最後の試技(投げ)も良い感触なく終わり、「7位か…」と肩と落とした。

8位までは表彰があるため、表彰席に向かい7位の席に座っていると、6位の選手がいないという話になった。ふと一人の選手が私の横に立っていた。そして「俺が7位だよ」と声をかけてきた。7位だった選手には申し訳ないことをした気持ちだが、自分の力を出し切ることに集中していたため表彰席の椅子で初めて自分が6位だったこと、インターハイを決めたことを知ったのだ。表彰式が行われる前のトイレ休憩。全身の力が抜けて廊下で座り込んでいると神奈川県3位だった仲間が肩に手を当てて「よかったな」と声をかけてくれた。彼は中学校からの俗にいう「ライバル」だ。表彰後にその親御さんも喜んでくれ、7位と1cmの差であったことを教えてくれた。

捻挫した時、6投目が終わって7位を感じたとき。負けを覚悟した自分は間違いなくいた。物事、基本的には自分本位にはいかないものだと思うし、その覚悟がないと社会のストレスにも対応できない。ただ、辛い現実につづかった時、自分なりのベストを尽くす大事さを学んだ高校生活の瞬間でもあった。

余談…日々の練習から、一投勝負であれば勝つ自信があった。関東大会でそのような経験をした私は、インターハイランキング34位で挑み、決勝12人に残ることができた。

